

看護科通信



第 56 号

2026年 2月 25日

★ 一年生

一年間を通して、さまざまな行事や学校生活、看護の授業を経験し、多くのことを学んだ一年でした。行事に向けて準備や練習を重ねる中で、周囲と協力することの大切さや、一つの目標に向かって取り組むことの難しさ、そして達成することの喜びを知りました。

体育大会では、本番に向けて縄跳びや綱引きの練習を続けてきましたが、思うような結果を出すことができず、悔しさと反省が残りました。しかし、この経験から、結果だけにとらわれず、努力の過程を大切に、次へと活かしていくことの重要性を学ぶことができました。

龍北祭では、全員で何度も歌の練習を重ねました。また、準備をしてくださった先生方に挨拶ができていなかったことを指摘され、挨拶の大切さを改めて実感しました。積極的に挨拶を行うことでクラス全体の雰囲気良くなり、協力しやすくなることも感じました。その結果、クラスで一丸となって取り組むことができ、優勝という形で努力が実ったことに大きな達成感を得ました。

さらに、看護技術や知識についても多くのことを学びました。看護技術では、計画的な行動が不十分であることに身に染みて感じました。

今後もし日々の学習を大切にすることでテストでは平均点八十点以上を目標に努力を重ねていきます。

この一年間で得た経験を、今後の学校生活や看護の学びに活かし、さらに成長していきたいです。



二年生

私たち看護科二年生は、看護師になるという目標を胸に、一年間学習や実習に取り組んできました。二学期には、老年看護実習、地域・在宅看護論実習、基礎看護実習Ⅱの三つの実習を経験しました。

老年看護実習では、地域で生活する高齢者を身体的・精神的・社会的の三側面から理解し、相手の思いを汲み取った関わりの大切さを学びました。しかし、思うようにコミュニケーションを取ることができず悩むこともありましたが、職員同士で意見を共有し、声かけを工夫するといった成長につながることもできました。

地域・在宅看護論実習では、フィールドワークや自治会活動への参加を通して、地域で暮らす人々が大切にしていることを聞くことができました。また、地域で暮らす人々の生活や社会資源、そして地域における看護師の役割について理解を深めることができました。

基礎看護実習Ⅱでは、担当患者さんの清潔援助や環境整備などの日常生活援助を行いました。初めての援助に緊張し、思い通りにいかないことも多くありましたが、カンファレンスで指導者さんや職員から助言を受けることで、患者さんにあった援助方法を考えることができました。また、実習中に主体的に行動する力を身につけることができました。

この一年間は大変なことも多くありましたが、看護学生として成長できた一年だったと感じています。三年生でもクラスで支え合いながらさらに看護の学びを深めていきたいです。



三年生

三年生になり、看護科目が増え、学習内容がさらに難しくなりました。これまでに学んできた解剖生理学や基礎看護技術などの知識を活用する場面が多くなり、授業を通して、自分たちの知識や学習不足に気付かされることも多くありました。また、実習ではこれらの基礎となる知識が十分に身につけていなかったり、技術面での手技が不足している部分が目立ち、自分たちの実習に向けての取り組み方の甘さを自覚しました。実習を進めていく中で、より充実した実習にするためには、お互いに支え合いながら援助を考え、良い看護が提供できるようにチームワークを大切にすることが必要であることも学び、実習に臨む態度を見直すきっかけともなりました。

すべての実習は、病院の方々や指導者さん、患者さん、先生方の支えがあつて成り立っているものであり、実習ができる環境があることに感謝しています。これからは多くのことを学び、より良い実習が行えるよう努力していきたいと思えます。

学校行事では、高校生活最後ということもあり、勉強と両立しながら、楽しむ時はクラス全員で全力で楽しむことができました。

専攻科に進学すると、今まで以上に多くの力が求められるため、高校で学んだことを振り返り、知識を確実に身につけながら学習を進めていきたいです。



専攻科一年生

一年を振り返ると、看護学生として多忙ながらも非常に充実した日々でした。特に印象深く心に残っているのは、週に二回行われた終講試験です。看護師になるために学ぶべき範囲は想像以上に広く、六十八科目という多さに、私達は乗り越えられるのか不安でいっぱいでした。膨大な課題とテスト勉強の両立は決して容易ではなく、プレッシャーから不安に押しつぶされそうになることもありました。

しかし、その困難を乗り越える力となったのは、共に励まし合える仲間が存在です。テスト前には、友達同士で重要なポイントを教え合ったり、問題を出し合ったりして、互いに理解を深めました。ただ一人で机に向かうのではなく、クラスメイトと助け合いながら切磋琢磨した経験は、単なる知識の習得以上に、私たちの中に強い絆を育んでくれる素晴らしい時間となりました。

また、十二月に行われたクリスマス会も忘れられない思い出です。みんなで楽しく話した時間は、日々の緊張から解放される貴重なリフレッシュの場となりました。みんなの笑顔を見て、これからもこの仲間と一緒に頑張っていこうと、改めて決意を固めることができました。

現在は、三月の成人・老年看護学実習Ⅲに向けて、事例の看護過程の展開や技術練習に励んでいます。実習の場でこれまでの学びを最大限に活かせるよう、力を入れて準備していきたいと思っています。専攻科二年生になると、七か月間に及ぶ長期実習や国家試験に向けた本格的な学習が始まります。今年深めた友情を糧に、クラス全員で成長できるような努力しつつ、一歩ずつ前へ進んでいきます。



専攻科二年生

私たちは五月から七か月間にわたる実習で多くのことを学びました。慣れない環境の中で緊張や不安を感じることも多くありましたが、患者様との関わりを通して、看護のやりがいや責任の重さを実感しました。指導者の皆さまや先生方、そして仲間を支えられながら、一つひとつの経験を大切に、学びを積み重ねてきました。

七月には研修旅行に参加しました。台湾の看護学生と交流しながら、包帯法や注射法について共に学びました。同じ看護を学ぶ学生であっても、手技の工夫や考え方に違いがあり、大きな刺激を受けました。授業や演習を通して台湾の医療だけでなく、文化や生活習慣にも触れることができ、貴重な経験となりました。言葉の壁はありましたが、身振り手振りを交え、笑顔でコミュニケーションを取ることで、国を越えてつながることができたことが強く印象に残っています。

その後、十二月には実習のまとめとして事例報告会を行いました。事例発表では、患者様を一人の生活者として捉え、自分自身の看護援助を振り返ることの大切さを学びました。まとめる過程では悩むこともありましたが、発表を通して自分の考える看護を言葉にまとめることで理解を深めることができました。また、他の学生の発表からも多くの学びを得ることができ、自分自身の視野が広がったと感じています。

実習や研修旅行、事例報告会を通して得た学びを今後の学習に活かし、自分の看護観をさらに深めながら、看護師として必要な力を身につけていきたいと考えています。

現在は国家試験を目前に控えた大切な時期を迎えています。覚えることも多く大変ですが、これまでの実習で学んだ経験と結びつけながら学習することで、理解が深まっていると感じています。仲間と励まし合いながら最後まで諦めずに取り組み、これまで積み重ねてきた力を十分に発揮できるように努力していきたいと思っています。悔いの残らないよう、一日一日を大切に過ごしていきます。

専攻科2年生から在校生に向けて

5年という時間は、長いようで振り返ると本当にあっという間です。

授業や試験、実習、部活動など、毎日忙しく過ごしている在校生の皆さんも多いと思います。思うようにいかず、辛くてくじけそうになることもあるかもしれませんが、でも、そんな時にそばにいてくれる仲間の存在や、一緒に笑ったり支え合ったりした時間は、何よりも大切に、かけがえのない宝物です。

実習でうまくいかなかった日や、勉強に追われて心に余裕がなくなってしまう日もあると思います。それでも、その一つひとつの経験が、少しずつ皆さんを成長させてくれています。うまくできたことだけでなく、悩んだ時間や迷った気持ちも、将来きっと誰かに寄り添える力へとつながっていきます。

悩みを一人で抱え込まず、先生やクラスメイトに相談することも大切です。友達とのつながりを大事にしながら、クラスで一致団結して支え合うことで、乗り越えられることがたくさんあります。誰かに話すことで気持ちが軽くなったり、新しい気づきを得られたりすることもあります。無理をしすぎず、時には息抜きをしながら、目の前のことに一つずつ取り組んでください。

今という時間を大切に、自分らしい学生生活を過ごしてほしいと心から願っています。

